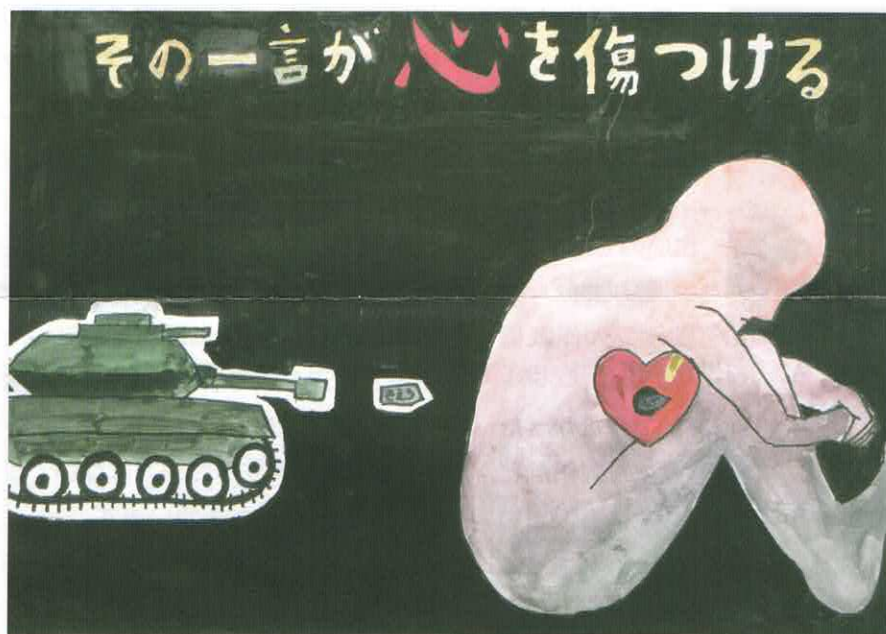




発行
豊中市人権教育推進委員協議会
機関紙編集部会
(豊中市教育委員会事務局社会教育課内)
電話 06-6858-2580
toyonakajinkenkyou@yahoo.co.jp



令和6年度(2024年度)人権作品募集入選作品より

巻頭言

知覧飛行場跡地の戦争遺跡を訪ねて

副会長 若柳 玉貴

昨年10月に知覧飛行場跡地の戦争遺跡を訪ねる旅をしました。

テレビや新聞で知覧特攻隊員の特集を観て、一度は訪れたいと思っていた場所でした。

知覧特攻平和会館へ入館して、最初に語り部の講話を聴きました。語り部が特攻の歴史背景と特攻隊員の遺書、手紙などの特色について30分間ほど解説。その中で17歳という若さで出撃した隊員のことや、家族に未練があつては出撃の妨げになると、この世に未練を残さず出撃できるようにと、先に妻が子どもを抱いて川へ身投げしたという話は衝撃でした。

館内には特攻隊員を調べるタッチパネルがあり、陸、海軍特攻の戦死者の出身や氏名の検索ができ、歴史が生んだ特攻のことや特攻を支えた人々のことを知ることができます。約250点の遺書、手紙、遺詠、絶筆や遺筆が展示してあり、一部を楷書化し理解が難しいと思われる用語には説明をつけてありました。家族や

国の将来を思いうかべながら出撃していった若き特攻隊員の心の声が聞こえてくるようで、資料を見ながら涙が止まりませんでした。

知覧特攻平和会館の隣に三角兵舎が一部復元されていました。三角兵舎とは、特攻隊員たちが出撃までの数日間を寝泊りした宿舎です。当時は飛行場周辺の松林の中に造られていました。現在はその跡地には石碑が建てられています。

知覧飛行場跡地の戦争遺跡を訪ねて、改めて戦争の悲惨さや平和の尊さについて考えさせられました。戦争は被害・加害を問わず、かけがえない生命を奪い合う最大の人権侵害です。今も世界のどこかで戦争が起きています。平和で平等な社会になることを願っています。



令和7年度(2025年度)

「人権教育をすすめる市民の集い」を終えて

意見発表…テーマ：豊南(H)・小曽根(O)・高川(T)がつながりHOTな地域に
～自治の力を育む十二中校区～

発表者：並河 亜依さん(十二中校区常任委員)



意見発表要旨



テーマや内容を決める際に、校長先生から「中学校区の協同イベントでもあるし、良いのでは？」との提案もあり、クリーン大作戦に

ついて進めることとなりました。

私自身子どもが在籍していたときには参加できなかったのですが、間にコロナウイルスによるさまざまな対策などがあり、その頃とは内容もかなり変わっていたように思いました。

調べていく中で、たくさんの生徒や児童、保護者の方が参

加してくださっていると、その準備にも地域教育協議会や青少年健全育成会の方が携わってくださったこともわかりました。私自身も参加してみて地域清掃の大切さもさることながら、初めてお会いする保護者の方と一緒に活動する貴重な機会だと改めて感じました。

副題として「自治の力を育む十二中校区」としましたが、昨今は地域のつながりが薄くなってきています。以前なら、近所のおじちゃん、おばちゃんでしたが、関りがないため不審者と間違われて「声掛け事案」となることもあります。自治会の加入率が低いことや高齢化も、その要因と思われます。すぐに解消する問題ではないですが、少しずつでも進めていけたら良いと思います。

一人ひとりにできることは小さくても、それが集まり大きな波になるように願うばかりです。



記念講演…テーマ：講談「はだしのゲン」中沢啓治氏原作

講師：神田 香織さん(講談師)

記念講演要旨



中沢啓治さんによる自伝的漫画『はだしのゲン』は、広島で被爆した少年ゲンが、家族を失いながらも懸命に前を向いて生きようとする姿を描き、読む人に強い印象を残してきた作品だ。講談師・神田香織さんは、戦争の記憶が遠のく現代において、

この物語を語り続けている。

張り扇の響きと熱を帯びた語り口は、文字で追う物語とは異なり、息遣いや間(ま)、語り手の感情が重層的になり聴衆の心に響いてくる。ゲンが見た光景や感じた痛み、怒りが、まるでその場にいるように鮮明に描写されるのだ。

1945年8月6日、一瞬にして地獄と化した広島。原爆投下直後、倒壊した家屋の下敷きとなり、迫りくる炎の中で助けを求める父や姉、弟をなすすべもなく見殺しにせざるを得なかった少年ゲンの慟哭の場面は、戦争の残酷さと理不尽さを聴衆に深く突きつけるものであった。

しかし、この物語は悲劇の描写のみに留まらず、極限状態にあっても失われない人間の尊厳やどんな状況でも人は支えあい、生き抜くことができるという希望のメッセージである。

神田香織さんは講談という「語りの力」を用い、平和の尊さを次の世代に伝えている。

書記 福田 みどり

豊中市人権協は今日まで「市民の人権感覚の育成と、人権が大切にされた市民社会の実現」をめざし、取り組んでまいりましたが、自主的市民団体として、今後、自らの財源確保も大事なことから、昨年度にひきつづき「人権教育をすすめる市民の集い」においてご参加の皆様へ支援金をお願いいたしましたところ 31,051 円の支援金をお寄せいただきました。皆さまの貴重な支援金は今後の人権協の活動に活用させていただきます。ご協力ありがとうございました。

三中校区 はじめての現地研修



京都の銀閣寺に行ってきました。なぜ銀閣寺なのかと疑問を感じつつもバスに乗り込み、足利義政や金閣寺の話、「河原者」※と呼ばれた人たちの説明を聞き、「なるほど人権研修だ」と納得しながら、少し緊張しているうちに現地に到着しました。前日の雨に濡れた銀閣寺は知らない面をたくさん見せてくれました。

お昼ご飯を食べているときの雑談の中で、ほとんど知らない人ばかりだったみなさんとの緊張も解け、ともに人権教育について学ぶ大切さに触れ、目的地だけが重要ではないと感じ、帰宅したら子どもたちと話そうと思う研修となりました。

三中地区代表委員 深田 真子

※銀閣寺の庭などは善阿弥を中心とした山水河原者と蔑まれた被差別民たちにより造営されました。

八中校区 人と防災未来センターをたずねて



「阪神淡路大震災記念 人と防災未来センター」での現地研修では、震災の記憶を語り継ぐことの重みを再確認する貴重な機会となりました。

まず、大型スクリーンの再現映像では、地震の破壊力に圧倒されました。特に、避難所となった学校で多くの棺が並ぶ光景や、家族が寄り添う姿を描いた映像や復興展示には胸が締め付けられ、一緒に観覧していた中学生が涙するほど、当時の悲しみが鮮明に伝わってきました。

また、液状化現象のワークショップでは、模型の地盤が振動し、その上に建つ模型の建物がゆっくりと傾斜し沈下するようすを目の当たりにしました。文字や写真だけでは伝わらない、この現象のメカニズムと破壊力を視覚的に理解でき大変勉強になりました。

この見学をとおして、自然災害の脅威とそれに対する備えの重要性を改めて痛感し、防災意識を新たにする有意義な体験となりました。

八中校区常任委員 宮崎 怜



役員・常任委員現地研修会



2026.1.20

能勢町の下田地区を訪ねました。午前中は下田の歴史や、講師の経験談を伺いフィールドワークを。能勢黒牛の焼肉ランチをいただいた後、能勢町唯一の義務教育学校である、能勢ささゆり学園を見学させていただきました。

会計 林 久美子



★ 第二回推進委員研修講座を受けて ★

【テーマ】「スマホ時代の子どもたちのために」～被害者にも加害者にもしない～

【講師】 竹内 義博さん（ソーシャルメディア研究会チーフ技術指導員）

講座の始めに紹介していただいた「Society5.0」の動画。これは、2018年に総務省が制作した超スマート社会のPR動画です。

「Society5.0」とは、2016年に政府の戦略として「第5期科学技術基本計画」の中で提唱されたものだそうですが、恥ずかしながら私は「Society5.0」という言葉を知りませんでした。

動画の中で紹介されていた「キャッシュレス」「遠隔注文」「AI家電」「無人走行バス」「スマート農業」「遠隔医療」「ドローン宅配」など、2018年のPR動画制作当時は夢物語だと思われていたことの多くが、今では現実になっています。

インターネットは便利なもの。もはや私たちの生活には欠かせないものになっていますが、その反面

で、ネット上による誹謗中傷や、いわゆる闇バイトなどが深刻な社会問題になっているのは事実です。

そういったことに子どもたちを巻き込まないようにすること

とは、とても大切なことだと感じました。何か問題が起こった時に、気軽に相談できる存在でありたい。そして、被害者にも加害者にもならないよう、家庭でもインターネットについて正しく学んでいきたいと思いました。

二中校区常任委員 矢森 和枝



学校では今

豊中市立第十三中学校長 藤原 崇



第十三中学校は1977年に創立され、今年、開校から50年という大きな節目を迎えます。万葉の時代からその美しさを歌われてきた待兼山や、古い歴史を今に伝える刀根山。この詩情豊かな千里丘陵の一角に位置する本校は「自主・創造・敬愛」を校訓に掲げ、人権尊重の精神を根底に置いた学校づくりを推進しています。

教育活動の大きな柱は、生徒一人ひとりが「なりたい自分」を見つけるための「自分の生き方（将来）を見つけるキャリア教育」です。その基盤として「インクルーシブな視点に立った人権教育」「安心・信頼・創造をめざす生徒指導」「主体的・対話的で深い学びを実現する学習指導」の三点を大切にしています。

特に人権教育においては、現代社会の課題に向き合

い、互いを尊重し支え合える連帯感を育むことで、誰もが幸せに生きられる社会の実現を追求しています。また、3年間の一貫した体験活動を軸に、将来の目標を見据えた進路実現と望ましい生き方の確立をめざし、生徒と教職員がともに歩んでいます。

さらに、校区内の小学校とも連携した9年間の教育を通じて人権感覚の醸成に努めるとともに、地域諸団体からも多大な支援をいただいています。十三中の生徒たちには、他者を思いやる心と、全員で力を合わせて新たなものを創造する力があります。今後も地域と歩みをともし、豊かな人権感覚にあふれる学校・まちづくりを進めることで、お互いを認め合い、大切にし合える未来を創造していくことをめざしてまいります。

「夜間中学校ロビー展」を開催します

日 時：3月4（水）～10（火）9:00～17:00（※4日は12:00～17:00、土日除く）

場 所：豊中市役所第二庁舎1階ロビー



人権協は、今年度50周年を迎えた「豊中四中夜間中学」の取り組みや生徒作品をロビー展で紹介します。役員・常任委員会は、四中夜間の先生と生徒さんを招いて事前勉強会に取り組み、実際に授業に参加し交流してきました。

1973年「義務教育を修了できなかった人たちに教育の機会を」との市民署名が豊中市に提出され、当時の豊中市長が公約に掲げ議会承認のもと、1975年、第四中学校に「夜間中学校」（夜間学級）が開設されました。

「夜間中学校」（夜間学級）は、国籍を問わず、戦争や差別などさまざまな事情で、学齢期に小・中学校で十分な教育を受けることができなかった人が学ぶ学校です。2020



▲豊中四中夜間の歌



▲夜間中学の教室

年の国勢調査では、全国で約90万人が義務教育未修了であるとわかっています。豊中四中夜間では、外国籍の人も含め、10代後半から90代まで幅広い世代の中学生が平日17時40分から補食（給食）をはさんで21時まで授業を受け、学び続けています。

生徒の皆さんは、チャイムが鳴っても誰も片付けないし、目をキラキラさせて学んでいました。ある生徒さんは「私はこの学校が好きや、差別しない」「学ぶことで、はじめて生きることを知った」「ありのままを認めてくれるこの雰囲気が好きやねん」と話しておられました。夜間中学は「学びの場」だけでなく「居場所」としても大事な役割を果たしていました。ロビー展にぜひお越しください。

副会長 植松 英子

編集後記

昨年は戦後80周年ということで、豊中市では、あちらこちらで人権と平和についての催しが企画されました。私はできるだけ、足を運んで多くの人たちとともに、戦争の無い平和な世界を訴えていかなければならないと感じた年でした。

最後になりましたが、機関紙「じんけん」170号発行にあたりご執筆ご投稿いただきました皆さまに心よりお礼申しあげます。

副会長 渡邊 美代子

本協議会では、委員の任期は特に定めませんが、本会の目的を達成するために、学習活動の期間は10年を一期とし、入会から10年後の年度末に、継続意思確認ハガキを送付してまいりました。この度郵送費の値上げ等の面からこのハガキでの意思確認を行わないことにしました。

退会ご希望の方は本協議会事務局まで、お電話かメールでお知らせくださいますよう、よろしくお願いいたします。